

五十嵐ゆうこの米國小売業最新レポート

2020年4月22日

The New Normal

(新たな常識)

未だ COVIN-19 に罹患する患者数に歯止めが利かず世界感染者の 30% を米国が占めている状況で、トランプ大統領は米国経済を通常の形に戻していこうという **”Opening Up America Again”** 計画を 2020 年 4 月 16 日に発表しました。

3 段階の景気回復案は、第 1 段階はテレワーク主体で一部通勤可能 第 2 段階は学校再開と不要不急以外の外出許可 第 3 段階は制限の大幅緩和、一定の距離いわゆるソーシャルディスタンスを保ちながらの職場への通勤と飲食業などの営業再開を州ごとに決めて行う という流れです。

この発表直後、テキサス州が 4 月 24 日からの食品以外の小売店をピックアップのみで再開し、3 日後の 27 日にはレストランやバー、映画館などのサービスをある程度の空間を設け再開する、すなわち自粛明け を徐々にステップアップし、続いてジョージア州、テネシー州も同様の時期に合わせた再開の計画をしています。

罹患者と死者が現在世界でトップのニューヨークでも、経済活動再開への判断材料として 4 月 20 日から日に 2 千人のペースで抗体検査をスタートしました。

このように少しずつですが、経済を再開する方向へ進む可能性が膨らんできました。ただ、新型コロナ COVIN-19 が収束したあとには **The New Normal (21 世紀初期の IT バブルや 2007 年のリーマンショック時に話題になったワードで、予測しなかった危機的状況によって物理的空間における常識が変化すること)** へ思考変化するだろうとの話になっています。

全米トップのスーパーマーケットチェーン Kroger の最高責任者 McMullen 氏は、現在一か月以上続いている外出制限下で、多くの消費者がスマートフォン操作の得意不得意に関係なく、デジタルショッピングを不可欠としており、また外食が一般的であった人々が内食傾向になった事で、食費が三分の一抑えられている事に気づき、Stocking (買い置き) する際も無駄なく綿密な計画を立てるという行動が高まっております。

これらはすべて The New Normal の影響であり、今後はその傾向にそったサプライチェーンの再構築が必要になってくると語っています。

米国で3月に自粛が発表された直後の10日間程では、缶詰や冷凍食品、小麦、バター、肉や水などが一気に陳列棚から姿を消しました。



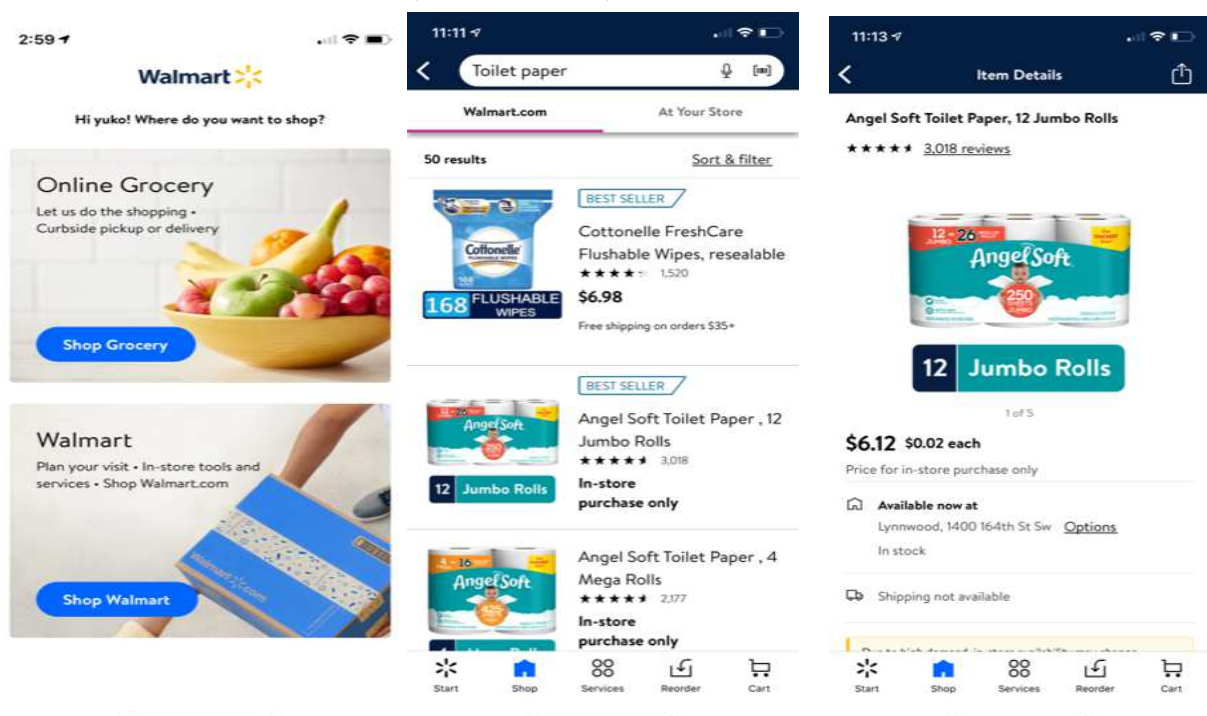
それから2週間を過ぎた頃、トイレットペーパーの品薄は続いたものの、そのほかの商品の供給は戻りました。



Walmart ではアプリのダウンロードを奨励しそれを活用することで、どの店舗に何が入荷されているのかを確実に知ることができるようになりました。

- ① スマートフォンやタブレットのアプリを開き、ホームのサーチのマイクを押しながら“Toilet paper”と話しかけると売れ筋の商品の写真がリストされます。
- ② 顧客はアプリ内で好きなブランドを選択すると、その商品がスムーズに購入できるよう登録された個人の住所から最も近い店舗が画面上に現れます。
- ③ 仮にその店に在庫が無いと表示が出れば、横にある Option をクリックすると画面上に距離が近い順に店舗ロケーションと在庫の有無が閲覧できます。
- ④ 客は自分が選択した商品の在庫のある店まで GPS システムに誘導されて買い物に行くか（各店舗ごとにどの売り場に行けばよいかのマップ表示もされていますので店内滞在時間の短縮にもなります。）
- ⑤ もしくはオンラインで注文して宅配を依頼する。
- ⑥ または事前に注文し、カーブサイド・ピックアップ（店舗外に設けられた専用駐車場にて車から降りることなくピックアップされた商品を受け取れます）を選択。

写真はつい昨日私が購入したペーパー類です。問題なく希望の量を購入できました。そして支払い終了後に受け取るレシートにあるバーコードをアプリで読み込むことで、自分の購入履歴情報が Re-order(再注文リスト)に保存できます。



アプリ上には自動的に家庭必需品、生鮮食料品、健康&美容、パーソナルケア、シーズナル（季節商品）と分類してくれて再び購入する際には、これらの商品をクリックするだけでアプリ上のショッピングカートに保存できるので、宅配や店舗ピックアップ時に活用できて、とても便利です。

以前は Walmart のグロサリーと一般商品のアプリは別でしたが、現在は統合され1つになったので更に使いやすくなりダウンロード数が現在急速に増えたそうです。



ホームセンターの大手チェーン Home Depot にも同様のアプリがあり各店舗の在庫数まで知ることができます。結果、Home Depot も既存店の売上 & オンラインの売上が好調だそうです。



このようにアプリ上で行うショッピングの便利さに慣れてくると、今までのようなアナログ的な買い方に戻れなくなります。

この買物のスタイルが The New Normal の 1 例なのでしょう。

ここで新型コロナ感染拡大によって浮上してきた新たな食に関する話ですが、現在グロサリーストアで肉の売上は前年度から 30%以上増加しています。

けれど学食や外食産業用の注文は減少しているので、全体売上は 25%落ち込んでいるそうです。

肉の解体処理工場ではあらかじめ外食用の容量に設定された生産設定を、いきなりグロサリー使用に切り替えるのも困難だそうです。

これは肉に限らず多くの業者用の牛乳や卵などが使用できずに廃棄されている問題と同様です。感染拡大の影響で家畜農家の人手が不足、このままでは生肉の供給が減ってしまう恐れも出てきています。

工場で働く人々に感染者が出てしまう場合を避けるため、ソーシャルディスタンスを設けなくてはならずラインあたりの作業人員を減らさなければいけません。

米国では一般的に肉を十分に調理するので熱を通せばウイルスが死滅することから、消費者が肉を食べることでの感染は起こりにくいのですが、作業現場で罹患者が出た場合、ライン全体が止まってしまいます。

屠畜された肉の処理ができなくなれば、生産自体が止まってしまい、結果として肉の供給が減少してしまう恐れが出てきます。

USDA(米国農務省)の4月11日の発表では、前週からの屠畜数が牛で14%、豚で6%、鳥で2%の割合で減少しており、この数値が今後も広がる恐れも出てきているそうです。

現在トランプ政権では、食肉加工場で働く従業員全員の陽性テストを義務付ける指示を出し始めたそうですが、その結果によっては幾つかの作業現場自体が一時閉鎖になることもあり、需要と供給のバランスが崩れることが懸念されます。

上記ニュースで消費者達は主食である肉の買い置きが増加してきており、またラインでの作業の効率化を図るが故に一時的に店舗で販売する品揃えは減り、消費者の購買行動を観察してから、食肉加工場がカットの種類を調整していくという流れになるようです。



ロックダウンで自宅に巣ごもりし、有り余っている時間を調理に費やすという米国消費者の動向の一例として、11月の感謝祭のみに売り上げが集中する七面鳥（感謝祭のイベントとして七面鳥の丸焼きを家庭で料理する風習で調理時間に丸一日を要する）やハム作り用の豚やチキンの塊が売れているという稀に見ない現象も起きているそうです。

これらは一時に調理してしまえば小分けにカットして冷凍もできるので、いざという時の保存食にもなるからでしょう。

最後に、私が加入している**南カリフォルニアの生協 Co-Opportunity** から届いたメールの一文が心温まるものでしたのでシェアします。

ちょっとした事ですが元気のでのメッセージって、今とても必要だと思います。

It's (physically distant) high fives all around as we're now seeing toilet paper and other paper products arriving daily. Shelves are full and we even have grocery back stock now! Cleaning supplies are still sparse but we're working on it. Should you need more masks, we now have washable masks available for purchase at both locations. Look for them at the registers and in Wellness.

(皆様と体は離れていますが) うれしくてハイタッチするかの如く、今はトイレットペーパーを始めとした紙製品が毎日入荷されています！

商品棚は満たされ、グロサリーの在庫も十分にございます！

掃除用の商品などで一部品切れ商品もまだありますが、仕入れできるよう努力中です。

マスクがもっと必要なら、どちらの店舗（南カリフォルニアで2店舗展開）の健康食品売り場とキャッシャーで洗濯可能な再利用マスクを販売しております。

外出制限緩和後には、また新しい変化が小売業に現れるのでしょうか。私も範囲を広げて取材、ご案内をしたいと思っております。

